

# 研修視察の意見・感想

氏名	定方 英一
委員会	経済市民委員会
視察年月日	平成 26 年 7 月 8 日（火）～10 日（木）
視察先	滝川・札幌・伊達市

## 滝川市 ＊「環のまち」物語について

### 1、はじめに

滝川市は、石狩平野の北部（空知平野）に位置し、札幌から電車で一時間弱の所にあります。中空知地域の中心都市として発展していて、近年では、石狩川河川敷にグライダー飛行場を建設し、グライダーによる町おこしが行われています。地名の由来は、空知川の語源であるアイヌ語の「ソーレプチペツ」（滝のある川）を意識したことからです。北海道で焼肉と言えばジンギスカンですが、中でも松尾ジンギスカンは知名度が高く滝川市に本社を置いています。



経済市民委員会（滝川駅にて）



良質な肥料（美ola）ビオラ

### 2、事業概要

滝川市「環のまち」物語～滝川市環境基本計画・地域行動計画という環境に関する計画を策定しました。一口に環境と言っても、様々な切り口がありますが、この計画では次の4つの視点（物語）から目指すべき将来の姿を描いた上で、それぞれに於いて達成すべき数値目標などを設定しています。

#### 1：資源の環 循環 物語

＊廃棄物の発生抑制やりサイクルを推進します。市民1人・1日のごみの排出量は、601gですが、H27までに470gを目標にしています。ちなみに、伊勢崎市は992gの排出であります。

#### 2：創エネ・省エネ 物語

\*エネルギーの消費抑制、再生可能エネルギーの利活用を推進します。

3：農・山・川 物語

\*豊かな自然環境、農業にふれあい、育む活動を推進します。

4：人の環づくり 物語

\*環境づくりを担う人材育成とネットワークづくりを推進します。



生ごみ専用袋 (12L 100 円) (6L 50 円) 燃えるごみ 40L 100 円 20L 50 円。

生ごみの処理について

視察に訪れた、リサイクルンで行われている1つが、生ごみの処理です。発酵槽の中で生まれたメタンガスを利用して発電。発酵した後の残さから、良質な肥料(美ola・・ピオラ)が生成されます。



バイオガス発電設備

### 3、まとめ

北海道の広い大地の中でゴミ減量化・環境問題に取り組み、平成15年に「環境都市宣言」をしています。

ゴミ排出量も601gと低く市民の意識も非常に高く、近所でちょっとでも煙が出ようものなら警察まで押し掛ける騒ぎとか。また、ゴミ袋100円で、分類が細かく分かれ市民のごみ出しマナーも確りしている、どこかの市ではゴミ有料で落選?などと言われます。この地域の人々の環境に対する意識の高さに敬服します。

だからこそ、広い大地と自然が残る、北海道が有るんですね。



リサイクルン



# 札幌市 \*さぼーとほっと基金について

## 1、はじめに

道庁所在地で、豊かな自然に恵まれた北海道の政治・経済・文化の中心であります。明治2年（1869年）に開拓使が置かれて市の創建が始まり、今では人口194万人であり、北海道の3分の1が札幌市民であります。札幌の夏はさわやかで晴天の日が続きます。一方冬になると沢山の雪が降り、ひと冬を通しての積雪量は6メートルにも達します。毎年2月の「さっぽろ雪まつり」は国際的に有名な冬のイベントです。



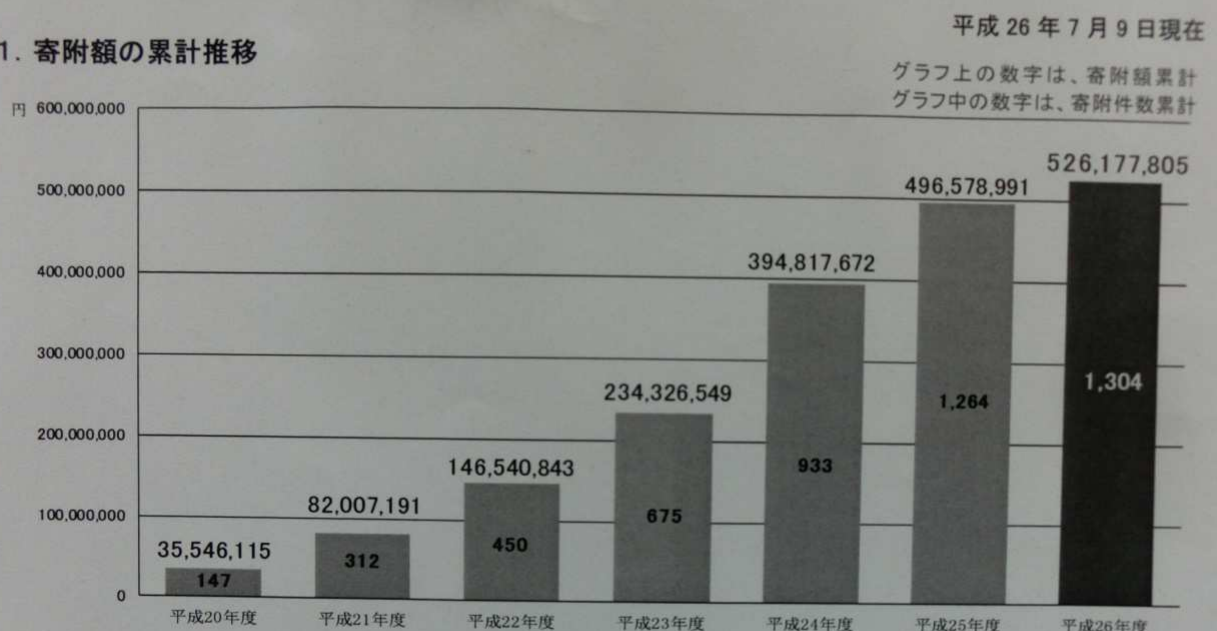
札幌市役所前にて

## 2、概要

さぼーとほっと基金は、皆さんからの寄付を札幌市が募り、町内会・ボランティア団体・NPOなどが行うまちづくり活動に助成することで、札幌のまちづくり活動を支える制度です。皆さんの善意の気持ちが、札幌市民のまちづくり活動を支え、札幌のまちをさらに住み良いまちにかえていきます。

### ■さぼーとほっと基金の状況について【発表資料】

#### 1. 寄附額の累計推移



## 2. 寄付額の年度推移

(単位:円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計
寄付件数	147	165	138	225	258	331	40	1,304
寄付額年度計	35,546,115	46,461,076	64,533,652	87,785,706	160,491,123	101,761,319	29,598,814	526,177,805
団体指定	30,083,000	38,911,100	49,757,509	37,993,614	44,030,471	69,843,407	9,538,000	280,157,101
分野指定	2,107,615	3,089,638	3,596,320	1,421,469	4,596,665	4,262,506	164,517	19,238,730
冠基金	0	1,000,000	9,564,300	7,821,843	102,614,767	8,938,965	2,594,869	132,534,744
テーマ指定	2,000	300,000	6,000	55,000	0	57,227	0	420,227
被災者支援	0	0	0	38,867,471	7,636,520	9,835,487	297,428	56,636,906
指定なし	3,353,500	3,160,338	1,609,523	1,626,309	1,612,700	8,823,727	17,004,000	37,190,097

## 3. 助成額の年度推移 ※寄附総額と助成総額の差は、次年度以降に助成

(単位:円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計
助成事業件数	25	61	109	114	128	123	61	621
助成額年度計	23,186,500	20,409,080	45,750,813	64,965,043	70,664,733	94,020,731	45,985,793	364,982,693
団体指定	21,403,500	15,506,100	38,630,221	48,704,271	50,626,967	78,573,057	38,598,220	292,042,336
事業数	13	30	61	58	69	77	30	338
分野指定	1,283,000	2,410,000	2,759,000	2,363,800	1,651,382	946,350	541,350	11,954,882
事業数	9	14	20	15	14	7	3	82
冠基金		500,000	2,661,592	3,240,870	5,226,468	3,425,960	2,246,223	17,301,113
事業数		5	14	16	21	19	15	90
テーマ	500,000	1,750,000	1,450,000	1,020,000	500,000	1,618,310	0	6,838,310
事業数	3	7	9	7	4	3	0	33
被災者支援				9,465,000	12,438,682	9,207,054	4,350,000	35,460,736
事業数				14	15	12	6	47
スタートアップ		242,980	250,000	171,102	221,234	250,000	250,000	1,385,316
事業数		5	5	4	5	5	7	31

上記の表のように平成20年から始まったこの事業、1,304件寄付額5億2千万円以上になりました。助成総額も3億6千万円と順調に、この事業も推移しています。また、この基金の特徴として

- 1: 思いにかなう寄付の行先を選べることです。寄付の際、応援したい{登録団体・活動分野・活動テーマ}を指定することができます。
- 2: 税負担が軽減されます。法人であれば法人税が、個人であれば所得税と住民税が軽減されます。
- 3: 高額寄付された場合(企業・団体の場合100万円以上、個人の場合500万円以上)、冠基金(企業・寄付者の名前等を冠した基金)を設置できます。

## 3. まとめ

大都市札幌ですが、行っている政策は、極め細やかであります。以前にも伺いました事がありますが、常に新鮮で、アイデア豊富な施策が沢山あります。今回の「さぽーとほっと基金」であります。言い換えれば、ふるさと納税に似ています。

しかし、ふるさと納税では敷居が高い、そこで、「さぽーとほっと基金」にして、分かりやすく、寄付をしてみたくするようにしたのでは？

と考えます。

市役所1階ロビーには「元気カフェ」があります。「社会福祉法人とともに福社会」と「宮田屋珈琲」のコラボレーションで、7名の内、障がいのある方5名を雇用して「寄付つきドリップカフェ」の販売も行っていました。この様に「さぽーとほっと基金」が出来たことにより各方面で注目され、益々札幌が躍進するように思えました。



元気カフェ





# 伊達市＊次世代エネルギーパークについて

## 1、はじめに

北海道伊達市は、北海道の南西部、北海道の中心都市である札幌市と函館市の間に位置し、北西には有珠山ら昭和新山、南は噴火湾（内浦湾）に面しています。工業都市室蘭や温泉観光地の登別・洞爺湖などと隣接しています。地名の通り、明治3年に仙台藩一門亘理領主伊達那成とその家臣達の集団移住で開拓した歴史があります。また、病院、大型ショッピングセンター、福祉施設などの生活に必要な施設が街中に集約された「コンパクトシティ」で、北海道内でも雪が少なく、四季を通じて気候が温暖なことから「北の湘南」と呼ばれています。



後方にはメタセコイアの巨木



伊達市全景（左ホテル屋上より）後方に洞爺湖・羊蹄山

## 2、事業

次世代エネルギーパークとは、新エネルギーとして注目を集めている太陽光や風力などの再生可能エネルギーを積極的に導入し、市民が見て触れることで、地球環境に調和したエネルギーに対する理解を深められる施設のことです。資源エネルギー庁が認定するものです。平成19年度から始まり、平成25年度、全国で56件、北海道では、稚内、札幌、芽室、伊達、足寄、下川の6件が認定されています。平成24年1月24日、伊達市は同庁から「次世代エネルギーパーク」に認定されました。



木質ペレット製造プラント



伊達ウィンドファーム



木質ペレット



伊達ソーラー発電所

伊達市の特徴である、木質ペレットプラントは、伊達市の豊かな森林資源から、環境に優しいエネルギーである木質ペレットを製造する設備であります。まず建屋外にて原料（丸太材）を移動式破砕機にて破砕します。以下、下記のようなフローにて製品出荷となります。

この様に化石燃料を使用しない環境に優しいプラントです。

木質ペレットとは、木の成長を促すため、混み合ってきた森林の一部を間引く「間伐」で発生する木材（間伐材）を粉砕し、

粉状にしたものに圧力をかけて直径 6 ミリ、長さ約 30 ミリ程度の円筒形に圧縮成型した木質燃料です。

木質ペレットは、薪に比べて小型で軽く一定の硬さがあり、型くずれしにくいいため、輸送や保管に優れています。

また、木質ペレットの二酸化炭素排出量は、石油の約 5 分の 1、電気の約 10 分の 1 とされ、環境にやさしい燃料として注目を集めて





います。製造される木質ペレットは、主に市内の公共施設や一般家庭で利用されていますが、室蘭市や登別市のほか、札幌市内の小・中学校の暖房用ボイラーの燃料としても利用されるなど、市外への木質ペレットの出荷が拡大しています。また、灯油との価格差は補助金で補っています。

### 3、まとめ

次世代エネルギーはとても大事なテーマであります。風力・太陽光発電がとかく話題になりますが、ここ伊達市は地の利を生かした、木質ペレットでの燃料でした。農業分野でもハウスの加温に木質ペレットを導入している事例もお聞きしました。少し手間は掛るかも知れませんが意識を持って前向きに取り組む姿勢が大事であります。公共施設の市役所や学校では導入されていますが、一般家庭までは少し難しいのかと思われます。これから益々地球温暖化の影響で、気象状況が目まぐるしく変わっています。ゲリラ豪雨・異常高温・大雪と暑い時はより暑く寒い時はより寒い今日、石油に依存する世の中から、次世代のエネルギー真剣に考える時が来たように思いました。北海道の自然に触れた3日間でしたが、改めて、我が伊勢崎の将来に向けファイトが湧きました。

